

2024 年度ゼミ (演習 3A/演習 3B) 要覧

担当者名	岩村 英之
演習テーマ	卒論作成—大学における学びの集大成
内容 と 卒業論文の 指導方針	<p>演習 2A および B では、現代の人工知能(*)の仕組みを文系レベル(高校 2 年程度の数学+α)で学びました。また、コンピュータ言語 Python を学んで、実際に簡単な人工知能を訓練することにも取り組みました。技術に対する理解をベースにして、人工知能の発展が社会経済にもたらす影響を考察し、卒業論文にまとめていきます。</p> <p>*「現代の人工知能」とは機械学習技術に基づいた人工知能を指しています。</p>
メール・アドレス	iwamura@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	関心のある方は必ずメールでご連絡ください。面談を設定します。
授業概要	<p>個人発表とグループディスカッションを通じて、各自の問いを絞り込んでいきます。グループディスカッションにおける他のゼミ生からの質問は、各自が問いを絞り込んでいく過程で重要な役割を果たします。他の人からの素朴な質問は、それまで当たり前だと思い込んでいたことが実は当たり前でないと感じるきっかけとなり、問いを深化させ、特定化していく助けとなるでしょう。一方で、個人発表は、それまでの自分の作業を整理するきっかけとなり、これから進むべき方向性を決めるのに役立ちます。テーマの遠い/近いにかかわらず、定期的に誰かに話す機会を持つようにしましょう。</p>
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能の技術的な理解をもとに、社会経済への影響を冷静に、論理的に考えられるようになる。 自分で問いをみつけ、論理とデータ（既存研究を含む）を用いて一応の答えを出す経験を積む。 全体の論理構成を意識しながら、比較的長い文章を書く経験を積む。 新しいことを独力で勉強する経験を積む。いつも誰かが教えてくれるわけではないので。
授業計画	<p>春学期</p> <p>【第 1 回】 ガイダンス</p> <p>【第 2 回】 ～ 【第 4 回】 第 1 回卒論中間報告</p> <p>【第 5 回】 ～ 【第 12 回】 グループディスカッション</p> <p>*適宜、卒論の構成や過去の卒論例について説明します。</p> <p>【第 13 回】 ～ 【第 15 回】 第 2 回卒論中間報告</p> <p>秋学期</p> <p>【第 1 回】 ガイダンス</p> <p>【第 2 回】 ～ 【第 4 回】 第 3 回卒論中間報告</p> <p>【第 5 回】 ～ 【第 8 回】 グループディスカッション</p> <p>*適宜、卒論の構成や過去の卒論例について説明します。</p> <p>【第 9 回】 卒論の形式に関する注意</p>

	<p>【第 10 回】～【第 12 回】 第 4 回卒論中間報告</p> <p>【第 13 回】 卒論最終報告(1)</p> <p>【第 14 回】 卒論最終報告(2)</p> <p>【第 15 回】 卒論最終報告(3)</p>
予習	1 週間のあいだに自分の考えたことを整理してきてください。具体的には、「どのような論文を読み、何を考え方」や、「どのようなデータを探し/見つけ、何がわかったのか」を整理しておきましょう。
復習	毎回、その日のディスカッションで得たフィードバックや見つけた課題を manaba の掲示板に書き込むようにしてください。
授業に関する注意事項	ひとの論文にアドバイスするのは難しいですが、何か質問をすることはできるのではないのでしょうか。意外にも、素朴な質問が考えを深めるきっかけになるものです。お互いに、「こんなこと聞いたら失礼かな」などと遠慮をしないで、積極的に質問をぶつけあいましょう。
教科書	明治学院大学教養教育センター『アカデミックリテラシーハンドブック』各年版
参考書	酒井聡樹 (2007)『これからレポート・論文を書く若者のために』共立出版
成績評価の基準	発表内容と議論への参加 (70 パーセント)、および各学期 1 回の卒論に関するタームペーパー (30 パーセント) で評価します。
関連 URL	
備考	数学およびコンピュータ言語 Python の知識が必須です。